

平成22年1月8日

国際農友会 会員各位

滋賀県国際農友会  
会長 平井 貞夫

## 平成21年度東海・近畿・北陸ブロック営農研究会について

厳冬の候、各位にはご健勝にてお過ごしのことと存じます。先日来の寒波では、滋賀県北部・西部に大雪警報が出ておりましたが、先年西日本国際フォーラムを主管した折りに、やはり大雪に見舞われた事を思い出しております。

遅くなりましたが、営農研究会の開催要項をお送り致します。今回の研究会では、稲作の権威である滋賀県立大学名誉教授の橋川潮先生を講師にお迎えし、総括講演をして頂きます。開催要項にも書いておりますが、農業及び農業者を取り巻く環境は、日々変化し厳しさを増しております。温暖化を始めとする地球環境の変化、都市化による地域環境の変化に、我々がどう対応してきたかを事例とし、環境の変化に対応した農業のあり方を考える機会になれば、と考えております。

事例発表では、地球温暖化に対応して地域の一般的な稲作と比較すると、1ヶ月～2ヶ月遅れて田植えを始める事で、品質の良い米の生産を計る取組と、市街化する周辺環境に対応して、自家営農の体系を変化させ販売戦略を見直す事で成功している取組について、発表致します。

総括講演では、これらの事例を踏まえて、我々農業者が環境の変化にどのように対応してゆくべきか、将来的には海外輸出も視野に入れた農産物のブランド化、販売戦略をどのようにすれば良いのかを考える一助になればと、講演をお願いしております。

大勢の皆様とお会いできるのを楽しみに、お待ちしております。